

[シンポジウム⑦]

7月1日(金) 14:30~16:00 (90分)

慢性期医療におけるチーム医療(多職種連携)を考える

平成22年6月に厚生労働省が実施した「医療施設・介護施設の利用者に関する横断調査」からは、医療療養病床1・2において要医療度の高い患者層を多く治療していることが明らかになっている。

現在の慢性期医療では、亜急性期・回復期・維持期・終末期・在宅医療と幅広い病態に適切に対処することが求められている。そのためには医療的治療だけでなく、リハビリ・看護・介護・薬剤・栄養などの多方面からのサポートが必要である。

また当協会の7つの約束を実現するためにも、慢性期医療の総合的な力を高めるには多職種協働のチーム医療をどのように推進するかが極めて重要な課題といえる。職種間連携については神戸・浜松・大阪大会にて看護・介護委員会による看護・介護の相互役割分担と連携そして教育について積極的に取り組まれてきた経緯がある。また大阪大会では薬剤委員会、ソーシャルワーク委員会、栄養委員会からも慢性期医療における専門職の役割とチーム医療への貢献について報告があった。

本シンポジウムでは看護・薬剤・栄養・MSW、それぞれの立場から、現場第一線でご活躍の先生方からの発表をお願いしている。これからの超高齢化社会で「慢性期医療における患者中心のチーム医療」の在り方を更に明確にしていきたい。

[シンポジウム座長]

伊豆 敦子(東浦平成病院理事長)

[シンポジスト]

講演①「患者中心のチーム医療 看護・介護の立場から」

服部 紀美子(定山溪病院 看護部長)

講演②「薬剤師が関わるチーム医療の事例について」

岡村 正夫(三条東病院 薬剤長)

講演③「慢性期病院からの退院支援における多職種連携」

～在宅介護スコアを活用して～

小林 裕恵(鹿島病院 医療相談員・社会福祉士)

講演④「チーム医療における管理栄養士の役割」

倉本 悦子(博愛記念病院 管理栄養部課長)